

エレン徹底マークの中、立体的な手綱さばきは見られるか?

第104期訓練兵団を首席で卒業した期待の新人。これまでの調査活動では、キャリアの浅さを感じさせない圧倒的な能力を見せてきた。『進撃の有馬記念』でも、紅一点ながら有力候補に挙げられている。小さい頃から力候補を助けてくれたエレンを家族として愛しており、彼を守るためなら何事もいとわない強い意志を持つが、問題はそれがどうレースに影響するか。おそろく、エレンの近くを走走しながら全体の状況を見る展開になるだろう。



ミカサ・アッカーマン
170cm・68kg

安定した騎乗技術を持つが、覚悟を決められるかがポイント。

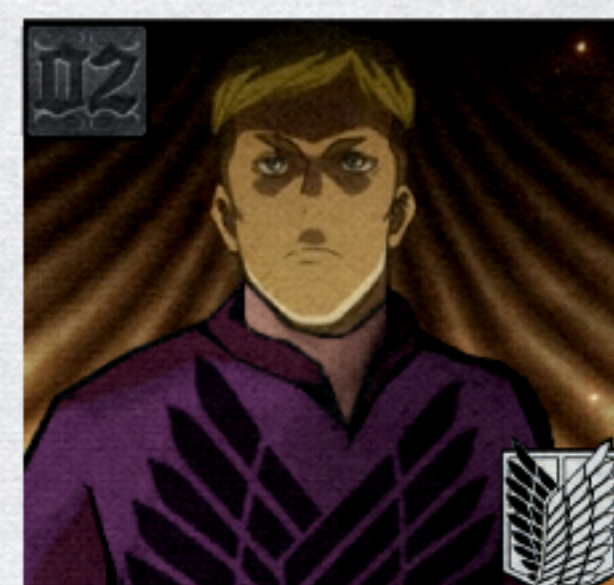
当初は内地での安全な暮らしを夢見ていたにもかかわらず、一転して調査兵団入りした新人。こちらも第104期訓練兵団の出身生で、立体的な手綱さばきや、安定した騎乗技術には定評がある。訓練兵の頃は傲慢で考え込む性格が見受けられたが、徐々にその面も解消されてきた。とはいえまだ完全に払しょくされたわけではない。今回も、レース中に考えすぎて仕掛けが遅れるケースもあり得る。一皮むけられるかが勝利へのポイントだろう。



ジャン・キルシュタイン
175cm・65kg

吠える団長は、賞金で兵団の運営資金獲得を目指す。

言わずと知れた調査兵団の団長で、物事を俯瞰できる視野の広さとカリスマ性は誰もが認めるところ。『進撃の有馬記念』においても、序盤のペースとライバルの位置取りを冷静に把握してくるはず。判断を間違えることは考えにくい。また、エルヴィンは時に大胆な作戦を立案してきたことも忘れてはならない。彼に絶大な信頼を寄せせる兵士は多いだけに、もしそれを逆手に取るようなことがあれば、ライバルには厳しい戦いとなる。

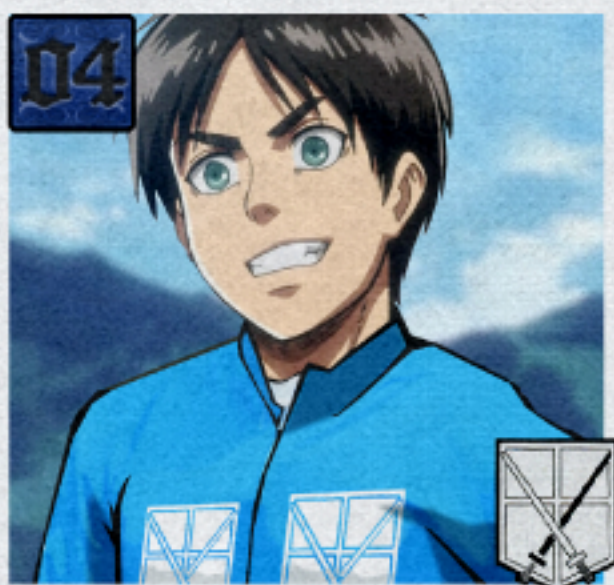


エルヴィン・スミス
188cm・92kg

精鋭ぞろいの『進撃の有馬記念』出場メンバー! 本紙にて一挙紹介!!

気合十分の新鋭は、気迫の走りで振り返りを誓う。

第104期訓練兵団の出身で、同期のミカサとアルミンは幼なじみ。小さい頃、巨人の襲撃で母を亡くして以来、巨人に対する対抗意識を燃やしてきた。闘志を前面に出した戦いぶり特徴で、レースにおいても、最後の直線では気迫を見せてくるはず。また、みずからも巨人化の能力を備えており、これまでにその力を使って人類を守ってきた。『進撃の有馬記念』では巨人の襲来が危惧されているが、本人は気合十分。振り返りを誓う。



エレン・イエガー
170cm・63kg

中山競馬場をみっちりリサーチ、戦略的な勝利を狙う。

身体能力では引けを取るものの、高い知力で頭角を現してきた第104期訓練兵団の出身生。新人ながら局面で見せる奇抜なアイデアは、調査兵団のエルヴィン団長やリヴァイ兵長が認めるほど。当然ながら『進撃の有馬記念』でも、アルミンの仕掛けが展開に大きな影響を与えることは想像に難くない。本人はレースに向け、船橋に引越して中山競馬場に足繁く通ってコース形態や歴史をみっちり学んだ様子。徹底的に「知力」で勝負するつもりだ。



アルミン・アルレルト
163cm・55kg

実力ナンバーワンの兵長は、潔癖の走りで圧勝なるか。

調査兵団の兵長で、その腕にかろう者他に見当たらないと言われるほどの実力者。経験も豊富で、『進撃の有馬記念』では優勝候補の筆頭と目されている。性格は神経質で粗糲だが、討伐の際は極めて落ち着いており、レースでもその姿は変わらないだろう。なお本人は極度の潔癖症なだけに、馬群の中で前の馬がなした土で汚れるのを嫌いスタート直後から先頭を奪う可能性も。そのままリヴァイがマイペースで逃げた場合は圧勝まで考えられる。



リヴァイ
160cm・65kg

人気に応じての有馬記念出場! 故郷に錦を飾れるか。

調査兵団所属で、確かな実力と経験を持つ兵士。ただし喋り方が嫌みっぽい。過小評価されがちな面がある。調査兵団での戦いぶりからすれば、『進撃の有馬記念』でも十分に一発を狙える実力者であり、一部の穴党はオルオの激走に期待しているようだ。なお本人は兵長のリヴァイに憧れを抱いており、彼の騎乗スタイルを真似る可能性も低くない。だが「人類最強」を真似るのはさすがに難易度が高く、自滅へとながる恐れもある。



オルオ・ボサド
173cm・61kg

ハンネスやミケ、アニーなどは惜しくも出場を辞退

7名の兵士が顔を揃えた『進撃の有馬記念』。他にも参戦を期待される兵士はいたが、出場には至らなかった。なかでもファンが落胆が大きかったのは、人気投票で1位となったハンネス。まさかの得票数に本人も動揺を隠せず「プレッシャーに耐えられない」と出場を辞退した。なお投票してくれたファンへの恩返しとして、本紙の出走表に予想を載せている。同じく人気投票上位で、リヴァイに次ぐ実力者といわれるミケ・サカリアも出場を辞退。巨人が出てきそうないを感じたため兵団の仕事優先した。

その他では、訓練兵の頃から高度な格闘術を見せていたア・レオン・ハートも出場を辞退。「か弱い少女であること」を理由とした。同様に訓練兵時代から素質を見せてきたライナー・ブラウンとヘルルト・フリーバーも早くから辞退を表明。なおアニー、ライナー、ヘルルトという第104期訓練兵団時代に優秀な成績を収めた3人は、昨日から行方が分からなくなっている。

それでも今回のメンバーは、年末の一番にふさわしい顔ぶれ。果たして誰が勝利をつかむのか。

エレン vs 女型

撃スポ



迎撃 機動力に勝る女型が有利か!? は気合十分

巨人有馬記念に参戦か?
『進撃の有馬記念』のスタートが迫るなか、ファンは注目の巨人の動向に集まっている。現在、出場を表明しているのは調査兵団に所属する7名だが、一部の評論家は「巨人が何らかの形でレースに参戦してくるはず。その場合は確実に優勝争いに絡んでくる」との見方を強めている。なかでも警戒されるのが女型の巨人だ。これまで女型の巨人は、たびたびエレンと激闘を演じてきた。そのエレンが出場者として名を連ねているのであれば、女型の巨人が中山競馬場を「再戦」の舞台に選んでもおかしくない。

エレンも覚悟を決めている。集まった報道陣の前に「有馬記念で戦って……とにかく巨人をぶっ潰したいです」と語気を強めた。

問題は、再戦が現実となった場合のレース展開

世紀の一戦開幕!!
それでもエレンは、まるで自分を鼓舞するかのように「いいから黙って俺に投票しろ!」と気炎を上げた。エレンが女型か、あるいは……。いずれにせよ、『進撃の有馬記念』が人類の未来を左右することは間違いない。

第58回 有馬記念(GI) 12月22日(日) 15時25分発走

金の巨人が当たる!! tomodachi-grandprix.jp

進撃の有馬記念 shingeki-jra.jp レースはココからプレイ!

駐屯兵団の警備も大幅に強化



超大型巨人 中山競馬場に出現か!?

出現か!?

【超大型巨人、再来!?】
またあの光景が繰り返されるのか。「進撃の有馬記念」に向けて各陣営の調整が進む一方で、住民たちは超大型巨人の出現に不安を募らせている。

先日、東京競馬場を舞台に行われた『進撃のジャパングップ』。世界各国の実力者がしのぎを削る最中、競馬場のスタンド裏から超大型巨人が顔を出させたのは記憶に新しいところ。どっやその光景が中山競馬場で再現されるのだろうか。

このような噂が出てきた始まりは、調査兵団に所属するミケ・ザカリアスの嗅覚。巨人の出現を匂いで察知するという彼は、数日前から強い匂い

有馬記念、ついに枠順決まる！ 新兵の起用が目立つ注目の一戦！

馬番	8	7	6	5	4	3	2	1	馬番	中山10R
写真										
出場者名	リヴァイ	ジャン・キルシュタイン	ミカサ・アッカーマン	エレン・イエーガー	アルミン・アルレルト	エルヴィン・スミス	オルオ・ボサド	ザックレー		
出走券	18.3	1.2	3.4	18.3	42.2	11.4	128.2	オッズ		
謎の存在	精神充実	実績一番	新星登場	気合抜群	秘策あり	団長健在	軽視禁物	短評		

を感じていたという。また、巨人研究の第一人者である本紙解説員のハンジ・ゾエも、中山競馬場に超大型巨人が姿を見せる可能性が高いという見解を示した。2人は調査兵団でも上位を争う実力者であり、今回の『進撃の有馬記念』に出場すれば有力と見られていた存在。この2名の出走辞退はファンを驚かせたが、もしかするとその背景には、超大型巨人の出現に

備えるという側面があったのかもしれない。

センターブラザに出現?

調査兵団の団長であり、誰もが巨人の脅威を知るエルヴィン・スミスも、超大型巨人の襲来に危機感を募らせている。もし出現が現実となった場合は、当然ながら彼の力が必要になるだろう。だがエルヴィンは、ミケやハンジとは異なり出走を決意。このレースにかける意気込み

は相当なようだ。なお中山競馬場の立地や構造、あるいはこれまでの巨人の行動パターンからして、超大型巨人が出現する場合は中山競馬場のセンターブラザあたりになるのではないかと、声が多数挙がっている。駐屯兵団もこの付近の警備を強化する予定だ。当日、レースを観る中山競馬場を訪れる方は、くれぐれも超大型巨人の出現に気を付けてもらいたい。

エレンか？ 驚異の新人ミカサの真価が問われる

素質ではリヴァイに劣らないと評価されるミカサ。その彼女がどんなレースを見せるか、ファンはその一点に頭を悩ませている。

もちろんミカサが勝利のみを追求すれば、十分な有力候補だ。集中した時の手綱さばきやコーナリングの技術は非常に高く、意思も強い。誰もがその能力を認めている。

しかしミカサが「勝利」を目指すとも限らない。同じく成長を遂げたアルミン。頭脳派の彼にあって、中山競馬場の芝2500mは確実にプラスへと働くはずだ。というのも中山競馬場は最後の直線が310mと東京競馬場に比べて短いため、一般的には早めに前に上がっていった方が有利。しかし、ゴール前には高低差2.2mの急坂があるため、スタートが早すぎると思えば、逆に苦しくなる。そのようなことから、中山競馬場は仕掛け所が勝負を分ける難コース。

そこでアルミンの出番だ。彼の状況に合わせた柔軟な発想は大きな武器となるに違いない。伏兵とはいえない存在だ。『進撃の有馬記念』においてどんな答

中山こそアルミンの舞台 変化を見せるジャンにも期待

「ここに来て急成長を遂げたアルミン。頭脳派の彼にあって、中山競馬場の芝2500mは確実にプラスへと働くはずだ。というのも中山競馬場は最後の直線が310mと東京競馬場に比べて短いため、一般的には早めに前に上がっていった方が有利。しかし、ゴール前には高低差2.2mの急坂があるため、スタートが早すぎると思えば、逆に苦しくなる。そのようなことから、中山競馬場は仕掛け所が勝負を分ける難コース。

そこでアルミンの出番だ。彼の状況に合わせた柔軟な発想は大きな武器となるに違いない。伏兵とはいえない存在だ。『進撃の有馬記念』においてどんな答

えを導くか。同様に成長著しいのはアルミンと同期のジャンだ。性格の荒さが解消されるにつれて、戦いぶりは大きく向上。本人も「俺は今、何をすべきかが分かるんだよ！」と思っている。ジャンも、これまでと異なるような動きを見せている。

不安は巨人の襲来が現実となった場合、また経験が浅いゆえ、巨人を前にする以前のようには迷わず、さもないとはいえない。その時こそ、ジャンの真価が問われるはずだ。



ハンジさんの勝負馬券

【ハンジ・ゾエ】
調査兵団で分隊長を務める。巨人に対して人一倍の関心を持ち、マッドサイエンティスト的側面もある。レースよりも巨人の観察に興味があるため『進撃の有馬記念』の出場を辞退した。

本命は、我らがリヴァイ！
ただし若手2人にも、逆転の余地あり

こんには、私は調査兵団のハンジ・ゾエ。今回、巨人の研究が忙しくて『進撃の有馬記念』は出場を辞退したんだけど、嬉しいことに解説としてリスポに予想コラムを書けることになってね。私が見解を披露したいと思うんだ。ということで予想に移るんだけど、それにも『進撃の有馬記念』は豪華なメンバーが揃ったねえ。…今が伸び盛りのジャンとか、紅一点のミカサとか、嫌みっぽいけど実力は一応あるオルオとか。ただその中でも、リヴァイの能力は抜けてると思うんだ。彼の戦いぶりを見ればそれは一目瞭然だし、冷静さもある。弱点は極度の潔癖症だけど、戦いの最中は気にしないはずだからね。この舞台を勝つにふさわしい実力者なんじゃないかな。本命はリヴァイ。

ただし有馬記念は、たびたび大逆転劇やドラマが生まれたレースみたいなんだよね。そうなるなら私は俄然エレンが気になるな。何となくエレンは人類的希望。巨人化の能力があるんだから！ そういうヒーローが勝つてこそドラマ。ああ、もつとあの子を調べたいなあ。どんな秘密が隠されてるんだろうなあ。興味深いなあ！

それと、レースが行われる中山競馬場は小回りで直線も短いコース。そのため作戦ひとつで逆転可能な舞台なんだ。て。であれば、頭脳派アルミンの動向も注視したいよね。あの子は若いのにいいアイデア出すから。本命リヴァイ、対抗エレン、3番手アルミンってところかな。とは言いつつも、やっぱり私は巨人の参戦に期待してるんだよねえ。だからこれだけのメンバーが集まるわけだから、巨人が二オイを喫きついてもおかしくないはず！ 見てみたいよねえ、この出場者たちと巨人がどんなレースを繰り広げるのか。来てくれないかなあ、巨人！

ハンジさん結論
◎：リヴァイ ▲：アルミン
○：エレン 注：巨人
リヴァイ本命も、エレンのスター性とアルミンの頭脳は侮れず。巨人の出現にも期待



経験に勝る 三戦士の動き

優勝に近い存在と見られるのがリヴァイだ。実力、経験ともに文句なく、巨人討伐の際に見せる凄まじいスピードに付いていける者は見当たらない。展開不問で大きな死角もなく、よほどなことがない限り崩れないだろう。「人類最強」といわれるその実力を見せる公算は高い。

当の本人は、決戦前日にいち早く中山競馬場の調整ルーム(※翌日のレースに騎乗する騎手

誰もが舌を巻くカリスマ、エルヴィン！ オルオは単なる舌噛みか!?

そのリヴァイが目指すエルヴィンは、今日もライバル分析に時間を費やした。彼にとっての好材料は、出場者7名がすべて調査兵団所属ということ。となれば、団長であるエルヴィンがレースをコントロールしやすいのは明らか。また巨人がレースに出現した場合、誰よりもその強さを知るエルヴィンの判断が冴えるはずだ。

最近では調査兵団の財政難も深刻度を増しており、背に腹は代えられない状況。エルヴィンは「すべてを失う覚悟で挑まなくてはならない。必要ならリスクも負う。そうして戦わなければ勝てない」とコメント。何が何でも優勝賞金2億円を手に入れたら、調査費用を工面するつもりだ。

もう一人の実力者オルオも決して侮れない存在。本人は決戦を前にしても相変わらずの雄弁だった。が、レースの作戦については明言を避けた。しかし、最後に報道陣から「リヴァイをマークですか?」と質問が飛ぶと、なぜか舌を噛んだ。オルオの位置取りも色々な意味で注目だ。

